卒業生リレー寄稿⑪

「みちびき」

平成3年3月
施設園芸科卒
岩瀬　賢治

新緑の季節、「香友会だより」に寄稿させていただく機会を頂き、感謝しています。

私は、入学した頃は園芸や農業に興味も関心も無い生徒でした。しかし、授業や実習を通して学ぶことの楽しさや、汗を流しながら作業することで、綺麗な花や、おいしい野菜が栽培できることを体験しました。そうするうちに、興味や関心の無かった園芸や農業に面白さを感じ、もう少し学びたいと思うようになりました。そのように思えたのも、当時御指導いただいた先生方のおかげだと感謝しています。

高校3年生の進路を選択する時、私は就職を希望していました。その時担任の先生に、進学を薦めていただきました。私は、進学を決意し、園芸学部の四年制大学に進学しました。自分が大学に進学するなど、思いもよらないことでした。

進学先は県外だったのですが、高校時代に教えていただいた退職された先生からも、再々お手紙を頂き、教員免許取得の授業を受けることを決めました。そして、教育実習では母校で二週間、担任だった先生をはじめ、園芸科の先生方の指導の下、二週間充実した教育実習をさせていただきました。

現在私は香川県立高校で農業科の教諭として務めさせていただいています。日々生徒とともに、自分が高校時代に先生方から教えていただいたように、生徒に学習や実習を通して、知識や技術を伝えようと日々取り組んでいます。年齢も教えていただいていた頃の先生方に近くなり、当時の先生方の授業や実習を思い出す度に、私はまだまだ力不足で、到底先生方に及ばないと、教えていただいた日々を懐かしみながら、反省する毎日です。

「今日あるを感謝し最善を尽くして日々に進むべし。」という校訓の母校で、先生方に出会い、今の職業にみちびいていただいたことに感謝しています。

最後になりましたが、母校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

「特別な場所」

平成7年3月
専攻科衛生看護科卒
飯間　智子

私が専攻科衛生看護科を卒業し、はや二十年が経ちました。

卒業後は香川大学医学部附属病院に就職し、十九年間各病棟を経験しました。その後、子育てにも比重を置きたいと考え、退職した後、恩師に声をかけていただき、昨年度半年間、南高校で実習教諭に就きました。

久しぶりに学校に行くと、校舎の改築工事が行われていました。仮校舎へ移る生徒がいる中、看護科は職員室を含め以前のまま在りました。断片的な記憶が甦り、懐かしく感じました。在学中、銀杏の葉が綺麗に色づく頃、ベンチに座り友人と語り合った事を思い出し、また、専攻科棟の教室に入るとそこで過ごした日々が走馬灯のようによみがえりました。

生徒との関わりでは、若さや純粋さ、拙さや経年毎の成長に驚かされました。指導方法を自問し、戸惑いながらではありましたが、生徒に何か学びがあれば嬉しいと思い指導をさせてもらいました。在学中を振り返ると、友人との関係や自分の葛藤に一生懸命だったような気がします。就職してからの学びが自分を広げてくれましたが、その礎は学生時代に築き上げられたのかもしれません。勉学は勿論のこと、生徒として人として成長できる、同時に温かな場所であってほしいと思います。そして私を教えてくださった先生方に改めて感謝したいです。

在学五年間を含め、今回自分の転機に戻る機会があり、南高校は特別な場所になりました。今後については未定ですが、自分にできることをしっかり考えたいと思います

「高校生活を振り返って」

平成22年3月
家政科卒
山田　知佳

私は、平成22年3月に高松南高校の家政科を卒業し、現在は保育士として勤務しています。私は小さい頃から保育士になることが夢でした。しかし、それは漠然としたもので、高校に入学し進路を考えていく上で本当にこんな気持ちで保育士を目指してもいいのか、という気持ちもありました。そんな中、家政科の中でも3つのコースに分かれて、私は人間福祉コースを選びました。そのコースでは、保育について少し学ぶ機会があり、その中で保育園でクリスマス会をさせていただいたり、課題で母所にボランティアに行かせていただく機会があったりと、子どもたちと関わることが何度かありました。

子どもたちと関わっていく中で、やっぱり私は子どもが好きなんだということに改めて気付くことができました。そこから将来のことを真剣に考えることができるようになり、担任の先生と相談しながら保育学科